



Title	スワヒリ語チャニ方言について : 音韻および時制を中心に
Author(s)	竹村, 景子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 1999, 9, p. 118-129
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71095
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スワヒリ語チャアニ方言について

—音韻および時制を中心に—

竹村景子

1. はじめに

これまでスワヒリ語の地域方言は、Stigand(1915)、Bryan(1959)、Polomé(1967)、Heine(1970)、Chiraghdin(1977)などが分類を行なっている(Mkude 1983:67-68)。筆者が今回調査¹⁾に入った、タンザニアのザンジバル島のチャアニ(Chaani)村で話されているのは、既述の先行研究においては「Kitumbatu」と呼ばれる地域方言であると言える。しかしながら、今回のいくつかの調査結果から、その方言がいわゆるトウンバトゥ島で話されている「Kitumbatu」と全く同一のものであるとは言えないのではないかと考えられる。まず、村でその方言を実際に話している人々自身の中に、その言葉を「Kitumbatu」と呼ばずに「Kiswahili cha Chaani(チャアニのスワヒリ語)」、「Kichaani(チャアニ方言)」、「Kitumbatu-Chaani(チャアニのトウンバトゥ方言)」などと呼ぶ人が多く、「自分はチャアニのスワヒリ語を話している」と認識していることが確認された。また、同じ村に居住していても、トウンバトゥ島で生まれ育ち、婚姻のためにチャアニ村に来た女性と、チャアニ村で生まれ育った女性とは、たとえ同年代でも話している言葉に語彙や音韻、文法における差異があることが、参与観察において確認された。

今回、チャアニ村で話されるスワヒリ語の基礎語彙および基本的文法事項を記述すると同時に、チャアニ村と同様にトウンバトゥ方言が話されていると考えられる、ザンジバル島北部A郡のいくつかの村において、基礎語彙の比較調査を行なった²⁾が、その結果、やはり差異が認められると同時に、それぞれの村の住人が自分の村のスワヒリ語は他の村のスワヒリ語とは異なると認識していることが明らかになった。

これらのことから、本稿ではチャアニ村で話されるスワヒリ語を「チャアニ方言」と呼び、いわゆる「トウンバトゥ方言」とは異なるものとして論じていくことにする。スワヒリ語諸方言については、今後さらに細部にわたる研究を繰り返すことにより、その分布や相互関係を明らかにしなければならない。本稿はその第一段階として、チャアニ方言が話されるチャアニ村の概要を明らかにしつつ、これまで「トウンバトゥ方言」とひとまとめにしてくられていたザンジバル島北部の方言群のうち、チャアニ方言の概要—特に音韻と時制に

ついて一を紹介し、今後の研究の手がかりとすることを目的とする。

2. 調査の概要について

筆者がチャアニ村に滞在して調査を展開したのは、1998年9月14日から12月6日までである。チャアニ方言の基礎語彙調査と文法調査を中心に行なったが、既述の通り、チャアニ村を基点として北部A郡の村8村をまわり、方言がどのように分布しているのか、どのような相互関係があるのかを明らかにする手がかりを探るために、基礎語彙の比較調査および通婚圏調査も合わせて行なった(地図1参照のこと)。

チャアニ方言の調査に関しては、チャアニ村スタレヘニ(Stareheni)地区に在住のMwajuma Hatibu Mjaja氏(以下、ムワジュマ氏と呼ぶ)をインフォーマントとして行なった。ムワジュマ氏はチャアニ村から乗り合いバスで15分ほどの距離があるムクワジュニ(Mkwajuni)村のキベニ(Kibeni)地区で生まれ、12年間そこで育った後、婚姻のためにチャアニ村に移って来た。近年は、「tarigisi」といっていわゆる出生証明書にあたるものがあるので出生年が明らかになるが、ムワジュマ氏が誕生した頃にはそのようなものはなかった。したがって、彼女の正確な年齢は不詳であるが、ザンジバル革命が勃発(1964年)した前後には、既に北部県の女性同盟の秘書をして、村の女性たちの生活向上のために尽力していたというから、現在はおそらく70歳を過ぎたくらいではないかと推測される。結婚以来ずっとチャアニ村に居住しているので、12年間しか過ごさなかったムクワジュニの方言よりも、チャアニ方言の方がすでに日常最も使用する言語になっていると考えて差し支えない、ということだったが、ムクワジュニ方言とチャアニ方言については、たとえば「米」を意味する語がmchele(チャアニ方言)とnchele(ムクワジュニ方言)であるというように、差異を認識している。父親はチャアニ村で生まれ育ち、日常の使用言語はチャアニ方言であり、母親はムクワジュニ村で生まれ育ち、日常の使用言語はムクワジュニ方言であったという。教育に関しては、彼女が就学年齢に達した頃には、いわゆる学校教育を受けることはイスラームの考え方に反するものとして認められていなかったため、初等教育すら受けることはできなかったが、コーラン学校(chuo)には3歳の頃から8年余通ったということであった。非常に敬虔なムスリムである。

基礎語彙調査については、「バントウ諸語語彙調査票試案」(1979)をベースに、また、文法調査については「アジア・アフリカ諸言語のための文法調査表」(1990)をベースに、それぞれチャアニ方言の全体像を明らかにできるようにすべく、改変しながら用いた。

3. チャアニ村について

チャアニ村(以下チャアニ)はザンジバルタウンから北北東に直線距離にして35kmほどのところに位置しているが、実はChaani Kubwa(大チャアニ)とChaani Masingini(チャアニ旧村; masinginiはmsingi=「基礎」の指大形。村落の中で最も古いものがこの名称で呼ばれることが多いことから、大チャアニよりも歴史が古いことがわかる。大チャアニに対してChaani Ndogo; 小チャアニとも呼ばれる)の2つの村がある。今回筆者が調査したのはチャアニ旧村である。2つの村の間の距離は地図上では2km弱であるが、幹線道路から離れた奥の地区になると、地区同士が近接していることもあるので、言語的に差異があるとは考えられない。実際、チャアニ旧村に位置するチャアニ小学校、チャアニ・セカンダリースクールには両方の村から生徒たちが通ってきているが、参与観察上ではどちらの村の生徒もチャアニ方言を話していた³⁾。また、2つの村人同士は、お互いの村をng'ambu(標準語ではng'ambo; 向こう岸)と呼ぶ。これは、幹線道路において2つの村の境にあたるところに小さな川があり、橋がかかっているからである。チャアニは行政区分上はザンジバル北部県北部A郡(Wilaya ya Kaskazini A, Mkoa wa Kaskazini)に属する。1988年のザンジバル革命政府の人口統計によると、チャアニの総人口は2803人、そのうち男性は1316人、女性は1486人であり、総戸数は653戸、1戸あたりの平均人数は4.2人であった。その後、公的な政府資料としての人口統計はまだ出されていないが、その最新の政府資料を作成するために1998年夏に行なわれた世帯調査によると、現在は総人口3317人、そのうち男性は1647人、女性は1670人という結果が出ている。村全体の面積は把握できなかったが、41の地区⁴⁾がある。

チャアニの語源であるが、いくつかの説がある。最も有力な説は、トゥンバトゥ方言のchayaniだと言われている。chayaniとは、kuchaya⁵⁾: 動詞「がんばる」の複数に対する命令形⁶⁾であり、標準語ではkazaneniとなる。その由来とは、トゥンバトゥ島からザンジバル本島に移住してきて現在のチャアニあたりに住んでいた人々が、アラブ人Saidi Sudiに土地を奪われトゥンバトゥ島に逃げ返った際に、島に残っていた人々から“Chayani!”と叱咤激励されて再び住み始めたことだという。Saidi Sudiが現在のチャアニあたりにやって来て、非常に広大な土地を安価で買い占めてクローブのプランテーションなどを始めたのは1900年代前半のことで、1958年にはそこに住んでいた人々が彼によって全て追い出されるという事件も起こっている。しかし、村人たちもただ追い出されたわけではなく、彼の手がまだ及んでいない奥の地域を開拓して、完全に村から離れてしまうことはなかった

ようである。また、別の説としては、アラブ人たちがこのあたりに住む人々のことを「ただ住んでいるだけ、座っているだけで何も仕事をしないやつら」だから、“Chayani!”(標準語ではkaeni):ただ座っておけ、と蔑んで言ったことからだというもの、あるいは、村ができつつあるごく初期の頃に、トゥンバトゥ島や現在のマテムウェ(Matemuwe:北部A郡)村、プワニ・ムチャンガニ(Pwani Mchangani:北部A郡)村から移住して来た人々の間でいさかいが絶えず、それを鎮めようとした人が“Chayani!”、つまり、とりあえずみんな落ち着きなさい、いさかいをやめて一緒に暮らみなさい、と言ったことからだというものもある。

4. 音韻について

チャアニ方言で特徴的なことは、帯気音かそうでないかの完全な対立があることである。また、母音間では半母音の[j]が現われる。ただし、それがどのような規則にのっとっているのかは、まだ分析を行なっていないので、本稿では例をいくつか挙げるにとどめおく。なお、チャアニ方言の表記については、基本的に標準スワヒリ語の正書法にしたがうこととする。

4. 1 母音

チャアニ方言の母音は次の5つである。

- a [a]: ahadi「約束(軌形)」
- e [e]: -eyupe「白い」
- i [i]: iyembe「マンゴー<果実>(軌形)」
- o [ɔ]: oga「恐れ」
- u [u]: uzi「糸(軌形)」

4. 2 子音

チャアニ方言の子音は次の30である。

- p [p] : paya「屋根(軌形)」
- p [p^h] : paya「ガゼルの類(軌形)」
- b [b] : baba「父(軌形)」
- t [t] : taya「あご、ランプ(軌形)」

- t [t^h] : taya「エイの類(単数形)」
- d [ɖ] : dada「姉(単数形)」
- j [ʃ] : jana「昨日」
- k [k] : kukaya「座る、居る、住む」
- k [k^h] : kaya「カニの類(単数形)」
- g [ɡ] : gogo「丸太(単数形)」
- f [f] : fimbo「棒(単数形)」
- v [v] : vichwa「頭(複数形)」
- s [s] : singo「首(単数形)」
- z [z] : ziwa「乳房、湖(単数形)」
- sh [ʃ] : shoka「斧(単数形)」
- h [h] : habari「情報、知らせ(単数形)」
- ch [tʃ] : cha「～の<ex. kiyatu cha Ali: アリの靴>」
- ch [tʃ^h] : cha「先、尖った部分(単数形)」
- m [m] : mtu「人間(単数形)」
- n [n] : neno「ことば、単語(単数形)」
- ny [ɲ] : nyimbo「歌(単数形)」
- ng' [ŋ] : ng'ombe「牛(単数形)」
- l [l] : leyo「今日」
- r [r] : rangi「色(単数形)」
- w [w] : weye「あなた(独立人称代名詞)」
- y [j] : yatima「両親とも亡くした子、母親は存命だが父親は亡くした子(単数形)」
- mb [mb] : mbegere「肋骨(単数形)」
- nd [nd] : ndoyo「バケツ(単数形)」
- nj [ndʒ] : njaya「空腹、飢餓」
- ng [ŋɡ] : ngozi「皮(単数形)」

4. 3 母音間の[j]

本節の冒頭でも述べた通り、母音間には多くの場合[j]が現われる。名詞、動詞における例をそれぞれ挙げておく。わかりやすくするために、標準語においては[j]が現わ

れない単語のみを選んだ。

- 〈名詞〉 mguyu: 足(単数形), kifuya: 胸(単数形), kohoyo: 嘆(単数形), mayumivu: 痛み, kiyoyo: 鏡(単数形), muyume: 夫(単数形), weyusi: 黒, koya: かたつむり(単数形), ukayango: 土器の大鍋, mfunguyo mosi: (イスラーム暦の)1月
- 〈動詞〉 kununuya: 買う, kusikiya: 聞く、聴く, kukayuka: 乾く, kuvaya: 着る, kuyamuka: 起きる, kuleya: 育てる, kuyongoza: 導く、指し示す, kukataya: 否定する、断る, kuzunguyuka: まわる, kugeyuka: 変わる

4. 4 アラビア語起源の音

チャアニ方言には、標準語に存在するアラビア語起源の音 $-th[\theta]$ 、 $dh[\delta]$ 、 $kh[x]$ 、 $gh[\gamma]$ が見られない。それらは各々 $s[s]$ 、 $z[z]$ 、 $h[h]$ 、 $h[h]$ にとって替わられている⁷⁾。以下に若干の例を挙げる。

thelathini: 30 → salasini

dhahabu: 金 → zahabu

kheri: 幸福 → heri

lugha: 言語 → luha

5. 時制について

ここでは一切の分析を加えずに、チャアニ方言の語法を述べるにとどめおく。チャアニ方言には、テンス・アスペクトを表わす接辞が9つある。すなわち、 $-na-$ 、 $-ta-$ 、 $-ma-$ 、 $-sha-$ 、 $hu-$ 、 $-ja-$ 、 $-ka-$ 、 $-nge-$ 、 $-ngali-$ である。なお、過去時制を表わす接辞が存在しないことが大きな特徴と言えよう。本節では、現在時制を表わす $-na-$ 、未来時制を表わす $-ta-$ 、そして過去時制について述べていく。

5. 1 現在時制

次のような構造になる。

〈肯定形〉 主格接辞－時制接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Ku - na - ni - pik - iy - a

「あなたは私のために料理してくれている」

〈否定形〉 否定主格接辞－時制接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Hu - na - ni - pik - iy - a

「あなたは私のために料理してくれていない」

これらの構成要素のうち、目的格接辞は必須ではない。標準スワヒリ語を知っている者にとっては興味深いことであるが、否定形においても時制接辞が脱落せず、語尾変化も起こらない⁸⁾。

5. 2 未来時制

次のような構造になる。

〈肯定形〉 主格接辞－時制接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Ku - ta - ni - pik - iy - a

「あなたは私のために料理してくれる(だろう)」

〈否定形〉 否定主格接辞－時制接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Hu - ta - ni- - pik iy a

「あなたは私のために料理してくれない(だろう)／料理する気はない」

これらの構成要素のうち、目的格接辞は必須ではない。未来時制についてムワジュマ氏が特に強調していたことは、イスラームの考え方として未来に起こることは人知の及ぶことではないので、必ず‘Tukajaaliwa’、あるいは‘Muyungu akatujaaliya’といった「神の思し召しがあれば」を意味することばを付加しなければならない、ということであった。文法上は上記の表現で全く問題はないが、少なくともチャアニの中でそれらのことばを付加せずに明日や明後日の話をすれば、誰かからたしなめられると説明された。実際の参与観察においてこの点は確認できなかったもので、今後注意を払う点である。

5. 3 過去時制

次のような構造になる。

〈肯定形〉 主格接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Ku - ni - pik - il - i

「あなたは私のために料理してくれた」

〈否定形〉 否定主格接辞－否定主格接辞後辞⁹⁾－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

ex. Hu - e - ni - pik - iy - a
└── Hwe ──┘

「あなたは私のために料理してくれなかった」

これらの構成要素のうち、目的格接辞は必須ではない。ここで非常に興味深いことは、肯定形、否定形ともに時制接辞が存在しないことと共に、肯定形においては語尾に現われる母音が動詞語幹(動詞語根+派生接辞)の最後の音節に同化することである¹⁰⁾。これを母音調和と呼ぶか、それとも母音の同化と呼ぶかは今後の検討課題とするとして、以下にこの現象を明らかにする例を挙げる。

- 1) Mwana kanunuyu (< kununuya) buku.: 子供は本を買った。
- 2) Buku ligu (< kugwa).: 本が落ちた。
- 3) Nimpi (< kupa) buku.: 私は彼/彼女に本をあげた。
- 4) Nimono (< kona).: 私は彼/彼女を見た。
- 5) Kende (< kwenda) wa?: 彼/彼女はどこに行った?
- 6) Nilyi (< kulya) kuku.: 私は鶏を食べた。
- 7) Vuya inyi (< kunya).: 雨が降った。
- 8) Kapata (< kupata) pesa.: 彼/彼女はお金を手に入れた。
- 9) Kunisutu (< kusuta).: あなたは私を押した。
- 10) Kaningojo (< kungoja).: 彼/彼女は私を待った。
- 11) Mwana kamlilili (< kuliliya < kuliya) mama.: 子供は母親を求めて泣いた。
- 12) Nishogele (< kushogeya) sanduku kuno.: 私は箱をこちらに寄せた(動かした)。
- 13) Nimlele (< kuleya) Ali.: 私はアリを育てた。
- 14) Kacheke (< kucheka).: 彼/彼女は笑った。
- 15) Tucheze (< kucheza) mpira.: 私たちはサッカーをした。
- 16) Mrudi (< kurudi) nyumbani.: あなたたちは家に帰った。

このように、動詞語幹の最後の音節の母音と語尾の母音は常に同一である。ただし、上記の例のうち、単音節動詞である2、3、6、7については、他の単音節動詞の場合にどのような変化が起こるかも考慮しなければならないので、いかなる規則があつて語尾の母音が決定されているのかは、ここでは言及しないこととする。また、「できる」を意味する kuvyeza は、この規則にあてはまらない動詞として考えられる。なぜなら、「私は泳ぐことができた」は '*Nivyeze kogeleya.' ではなく、'Nivyeza kogeleya.' となるからである。同様に「できる」を意味する動詞として kweza もあり、こちらは 'Nikweze kogeleya.' となる。他に規則にあてはまらない動詞が見つかっていないため、現段階では kuvyeza のみが不

規則変化をしているのかどうかの判断はできない。

6. おわりに

本稿では、紙幅の都合上、体系的な記述をしなかったために、説明不足の点多々ある。基本的な文法事項—名詞クラス分類、各人称および各名詞クラスの接辞の形態など—が欠如しているので、チャアニ方言の全体像を把握することは不可能である。いずれ、基礎語彙集と共に、今回全く言及できなかった点について詳細をまとめ、新たに分析を加えて発表する予定である。また、既述のように、これまで「トウンバトゥ方言」とひとくくりにされていた北部地域の諸方言を比較分析するために、さらにいくつかの村でチャアニと同様の調査を行なわなければならないと考えている。もちろん、トウンバトゥ島において Kitumbatu そのものの調査を行なうことも今後の重要な課題である。

【注】

- 1) 今回の調査は、文部省科学研究費補助金(国際学術研究)によるプロジェクト(課題番号: 08041015)である「東アフリカにおける地域共通語に基づく文化圏生成とエスニシティの構造」(研究代表者: 宮本正興)の第3次年度調査の一環であり、筆者は1998年8月10日より12月19日まで、ケニア、タンザニアの海岸部、島嶼部を中心にスワヒリ語諸方言の基礎語彙調査、文法調査等を行なった。
- 2) この調査については、ケニアのラム島およびパテ島、ならびにザンジバルタウンでも行なっている。基礎語彙132語についてのべ87人に絵や写真を見せながら尋ねるという方法を使った。いずれこの調査結果についてもまとめて発表する。
- 3) ただし、「チャアニ方言」と一口に言っても、今回のインフォーマントの年代と、調査のカウンターパートを勤めてくれた Hassan Gora Haji 氏(ザンジバルタウンにある TAKILUKI: Taasisi ya Kiswahili na Lugha za Kigeni; スワヒリ語・外国語学院のポルトガル語教官であり、附属図書室の司書でもある。以下ハッサン氏)の年代(30歳代)、また彼の両親の年代(50歳代)、そして現在小学校高学年、セカンダリースクールに在籍中の子供たちの年代(10歳代後半)では、その話しているチャアニ方言に差異が認められる。特に、学校教育を受けているか否かということは大きな条件であり、後述する過去時制表現などの、チャアニ方言と標準語では全く異なる語法を示すものについては、子供たちの年代ではすでに併用が見られる。語彙の面でも、ムワジュマ

氏が知っているのに、50歳代の人でももうわからないという語がいくつか確認された。このような世代による言語使用の変化など、社会言語学的な部分についても、今後検討を重ねて発表したいと考えている。

- 4) 筆者が滞在したカウンターパートのハッサン氏の両親の家は、ムタクジャ(Mtakuja)地区にあり、ムワジュマ氏の家までは徒歩15分くらいである。これら41の地区名は、全てmafumbo(なぞかけ、パズル)になっており、それらの意味を考察するのも興味深い。なお、これら地区名ならびに以後のチャアニ村の歴史等に関することは、ムタクジャ地区在住のBakari Ali Gora氏(77歳?)をインフォーマントとして尋ねた結果、得られた情報である。
- 5) 以後、動詞については不定形で表わす。不定形接頭辞はku-である。
- 6) 命令形については、本文ではこれ以上言及しないので若干の説明を加えておく。チャアニ方言では、相手が単数の場合の命令形は、基本的に動詞の不定形から不定形接頭辞を除いた形になる。[ex. Kaya. : 座りなさい。(く kukaya: 座る、居る、住む)] また、複数の場合であっても、動詞の不定形から不定形接頭辞を除き、複数を表わす接尾辞である-niを後接させるのみである。[ex. Kayani. : (あなた方)座りなさい。]
- 7) 標準語においてもこの音はすでに存在しないとする意見もある。
- 8) しかしながら、現在の動作の進行ではなく事実としてそういうことはない、という意味を表わす際には、以下の否定形をとる。すなわち、
否定主格接辞－目的格接辞－動詞語根－派生接辞－語尾

Hu - ni - pik - il - i

「あなたは私のために料理してくれない」

- 9) この接辞-e-は、肯定形はもちろん、過去時制以外のいかなる時制においても現われない接辞である。名称については今後もっと適切な用語を検討するつもりである。なお、この接辞が入ることにより影響を受けて、各否定主格接辞に母音の同化が見られる。人称主格接辞を例にとると、以下のようになる。

数 人 称	過去時制以外の否定主格接辞		過去時制の否定主格接辞+e-	
	単数	複数	単数	複数
1 人称	si-	hatu-	se-	hetwe-
2 人称	hu-	ham-	hwe-	hemwe-
3 人称	ha-	hawa-	he-	hewe-

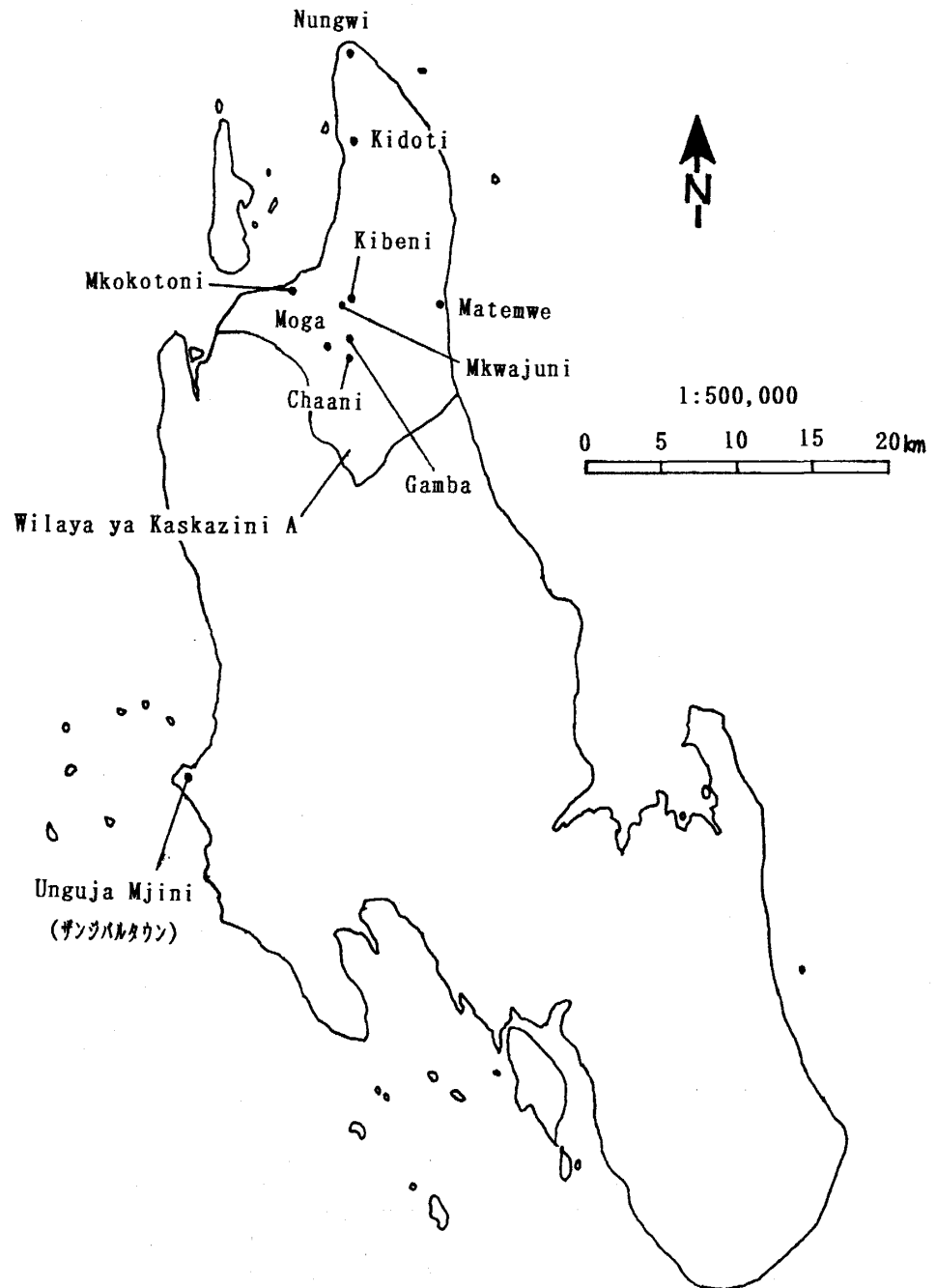
10) ただし、この母音の同化は受動態においては見られない。以下に例を挙げる。

Juma kapigwa.: ジュマは殴られた。

Juma kayumizwa ni mwanawe.: ジュマは息子/娘にけがをさせられた。

Juma kabanwa ni mlyango.: ジュマはドアにはさまれた。

【地図 1】



【参考文献】

「アジア・アフリカ諸言語の比較・対照研究」プロジェクト. 1990. 「アジア・アフリカ諸言語のための文法調査表」『アジア・アフリカ文法研究19』. pp. 1-26. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

BRYAN, M. A. 1959. "Swahili Group", *The Bantu Languages of Africa*. pp.126-129.
Oxford Univ. Press.

MKUDE, Daniel J. 1983. "Mtawanyiko wa Lahaja za Kiswahili", *Makala za Semina ya Kimataifa ya Waandishi wa Kiswahili I - Lugha ya Kiswahili*. pp.62-83.
Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili, Chuo Kikuu cha Dar-es-Salaam.

STIGAND, C. H. 1915. *A Grammar of Dialectic Changes in the Swahili Language*.
Cambridge Univ. Press.

湯川恭敏. 1979. 「バントゥ諸語語彙調査票試案」『アジア・アフリカ言語文化研究17』.
pp. 139-212. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.